

## 小金井市の植生

小金井市の植生 ―首都圏における緑の自然環境保全・回復・創造・管理のための植生学的研究― (宮脇ら, 1989) に基づき小金井市における植生を整理した。

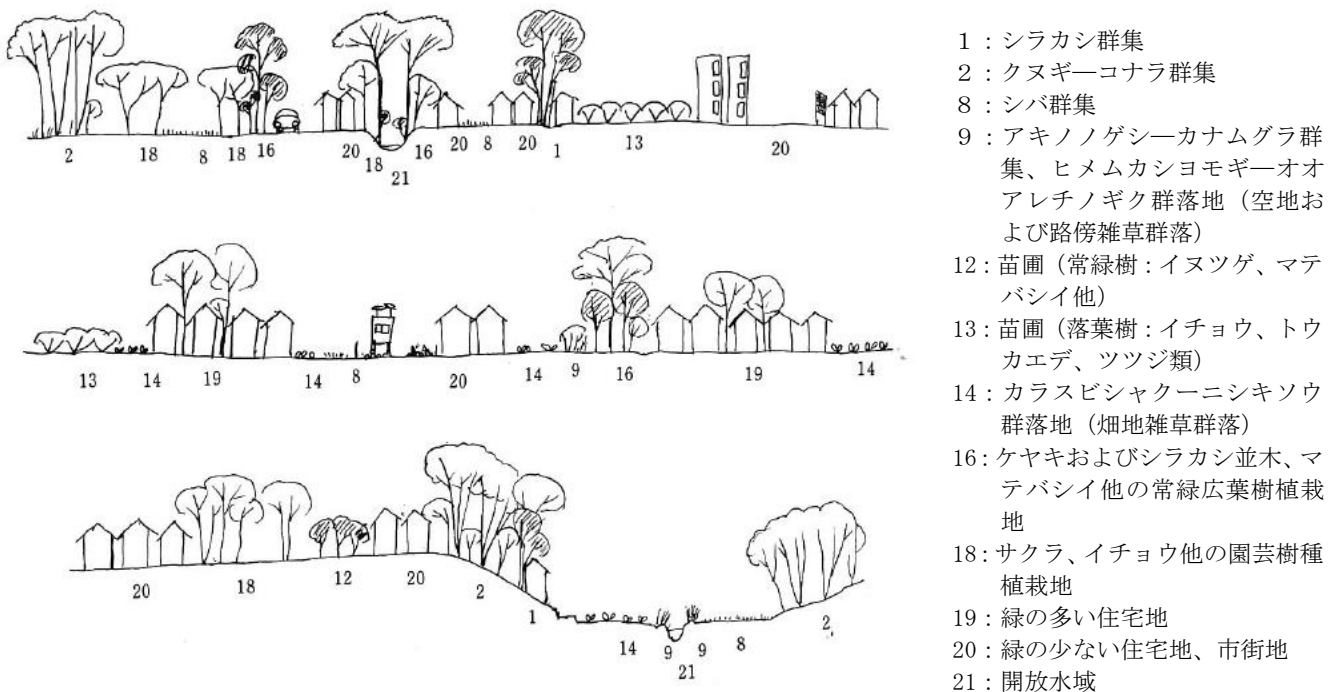
### ○小金井市の植生の変遷について

- ・潜在自然植生は、シラカシ群集典型亜群集、シラカシ群集クヌギ亜群集が大部分を占める。
- ・江戸時代後期になると新田開発により、宅地、耕地、森林で構成される新田集落がつくられ、森林は薪炭林として利用された。10～20年に1度伐採、あるいは下草刈りなど定期的に管理された森林は、武蔵野を代表する雑木林の景観を作り上げた。
- ・明治以降は、東京都市域の発展に伴って都市化が進み、山林や畑地が宅地等に転換された。

### ○1989年頃の植生について

#### <概要>

- ・すでに宅地化が進行していて、厳密な意味での自然植生は残されていない。
- ・市全域に市街地が広がっているが、果樹園や樹木苗圃などの耕作地雑草群落も比較的多く残されている。森林の面積は極めて限られるが、一部には潜在自然植生と一致した林分（シラカシ群集）が見られる。
- ・多くの都市では、都市化の進むエリアと半自然状態の残るエリアが偏って存在するが、本市では全市域的にほぼ均等に市街地と植物群落が配分されている。



出典) 小金井市の植生―首都圏における緑の自然環境保全・回復・創造・管理のための植生学的研究― (宮脇ら, 1989)

図 現存植生配分模式

### ＜森林植生の特徴＞

- ・大部分はクヌギーコナラ群集（二次林と呼ばれる雑木林）や植栽・植林され管理された林で、一部にシラカシ群集が見られる。

#### 【シラカシ群集】

- ・自然度の高い常緑広葉樹林のシラカシ群集は、国分寺崖線を骨格に、古くから残されてきた社寺林や現在園地になっている所などの斜面、水際に残されている。
- ・なお、これらはいずれも自然林が残ったものではなく、かつてシラカシやケヤキが植栽され、時間とともに構成種が回復したものである。

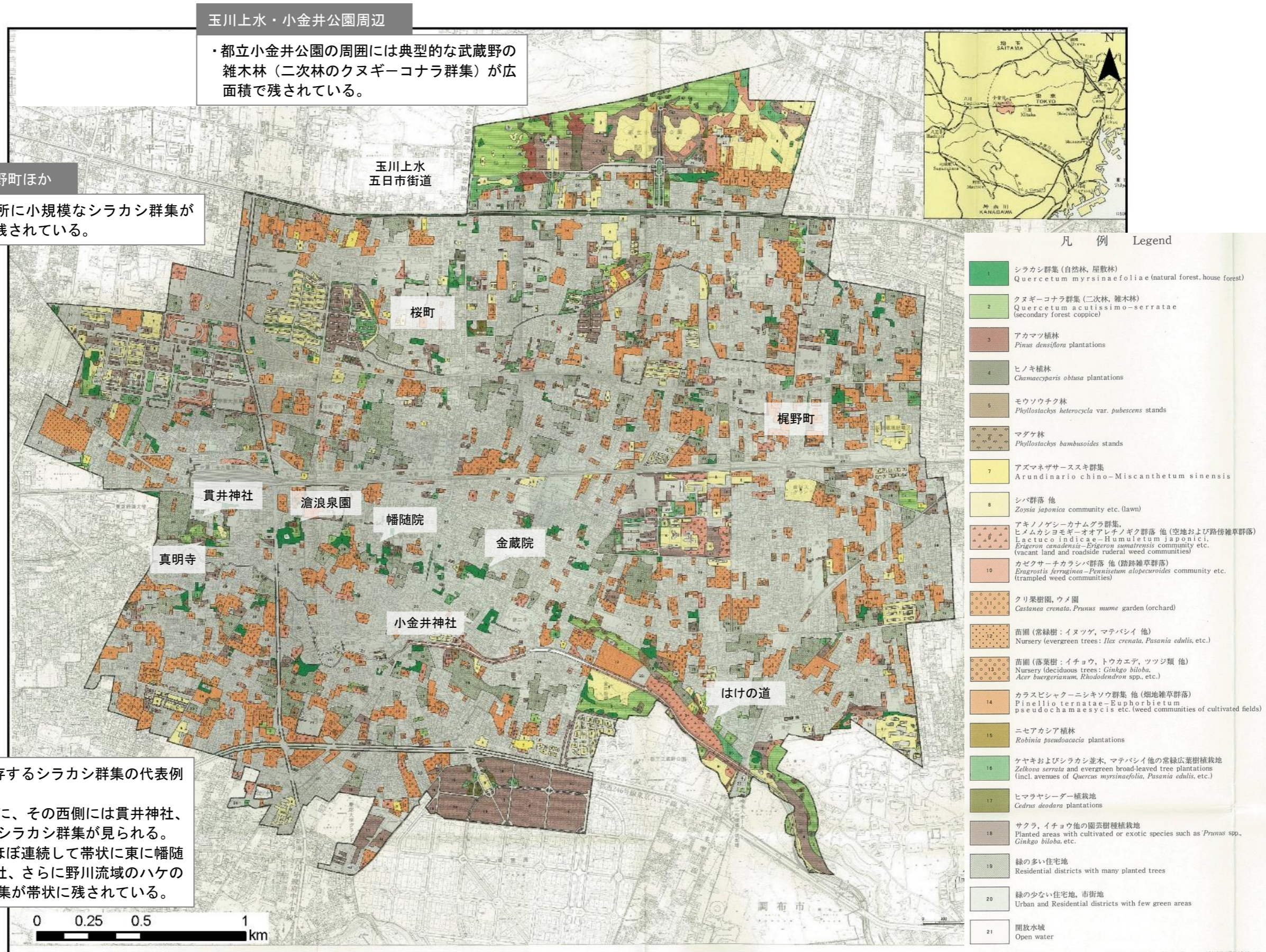
#### 【クヌギーコナラ群集】

- ・典型的な武蔵野の雑木林に代表されるクヌギーコナラ群集は、都立小金井公園の北側一帯、はけの道沿い斜面、野川公園等に広く残されている。



出典) 小金井市の植生—首都圏における緑の自然環境保全・回復・創造・管理のための植生学的研究— (宮脇ら, 1989)

写真 シラカシ群集 (左) とクヌギーコナラ群集 (右) の例



玉川上水・小金井公園周辺

・都立小金井公園の周囲には典型的な武蔵野の雑木林（二次林のクヌギ-コナラ群集）が広面積で残されている。

桜町、梶野町ほか

・市内各所に小規模なシラカシ群集が島状に残されている。

国分寺崖線周辺

・滄浪泉園の斜面は、残存するシラカシ群集の代表例である。  
 ・さらに滄浪泉園を中心に、その西側には貫井神社、真明寺などに一部残存シラカシ群集が見られる。  
 ・同様に、滄浪泉園からほぼ連続して帯状に東に幡随院、金蔵院、小金井神社、さらに野川流域のハケの道などにもシラカシ群集が帯状に残されている。

凡例 Legend

- 1 シラカシ群集(自然林, 屋敷林)  
Quercetum myrsinaefoliae (natural forest, house forest)
- 2 クヌギ-コナラ群集(二次林, 雑木林)  
Quercetum acutissimo-serratae (secondary forest coppice)
- 3 アカマツ植林  
Pinus densiflora plantations
- 4 ヒノキ植林  
Chamaecyparis obtusa plantations
- 5 モウソウチク林  
Phyllostachys heterocycla var. pubescens stands
- 6 マダケ林  
Phyllostachys bambusoides stands
- 7 アズマネザサ-ススキ群集  
Arundinaria chino-Miscanthetum sinensis
- 8 シバ群落 他  
Zoysia japonica community etc. (lawn)
- 9 アキノノゲシ-カナムグラ群集, ヒメムカシヨモギ-オオアレチノギク群落 他(空地および路傍雑草群落)  
Lactuco-indicae-Humuleto-japonici, Erigeron canadensis-Erigeron sumatrensis community etc. (vacant land and roadside ruderal weed communities)
- 10 カセクサ-チカラシバ群落 他(路傍雑草群落)  
Eragrostis ferruginea-Pennisetum alopecuroides community etc. (trampled weed communities)
- 11 クリ果樹園, ウメ園  
Castanea crenata, Prunus mume garden (orchard)
- 12 苗圃(常緑樹: イヌツグ, マテバシイ 他)  
Nursery (evergreen trees: Ilex crenata, Pasania edulis, etc.)
- 13 苗圃(落葉樹: イチョウ, トウカエデ, ツツジ類 他)  
Nursery (deciduous trees: Ginkgo biloba, Acer buergerianum, Rhododendron spp., etc.)
- 14 カラスビシャク-ニシキソウ群集 他(畑地雑草群落)  
Pinellio ternatae-Euphorbietum pseudochamaesydis etc. (weed communities of cultivated fields)
- 15 ニセアカシア植林  
Robinia pseudoacacia plantations
- 16 ケヤキおよびシラカシ並木, マテバシイ 他常緑広葉樹植栽地  
Zelkova serrata and evergreen broad-leaved tree plantations (incl. avenues of Quercus myrsinaefolia, Pasania edulis, etc.)
- 17 ヒマラヤシダー植栽地  
Cedrus deodara plantations
- 18 サクラ, イチョウ 他園芸樹種植栽地  
Planted areas with cultivated or exotic species such as Prunus spp., Ginkgo biloba, etc.
- 19 緑の多い住宅地  
Residential districts with many planted trees
- 20 緑の少ない住宅地, 市街地  
Urban and Residential districts with few green areas
- 21 開放水域  
Open water

出典) 小金井市の植生—首都圏における緑の自然環境保全・回復・創造・管理のための植生学的研究—(宮脇ら, 1989)  
 図 小金井市現存植生図(1989年)



【補足調査】

小金井市内の生物のネットワークの状況を把握するため、市街地でも指標に用いられるシジュウカラの移動を想定したネットワーク図を作成した。図の黄緑色の範囲がシジュウカラの移動可能範囲であり、このネットワークをつなげるためには、国分寺崖線や、浴恩館公園と東京農工大学の間のみどり（第三小学校、都立北高があるのでこのみどりの充実等）をつなげることが考えられる。

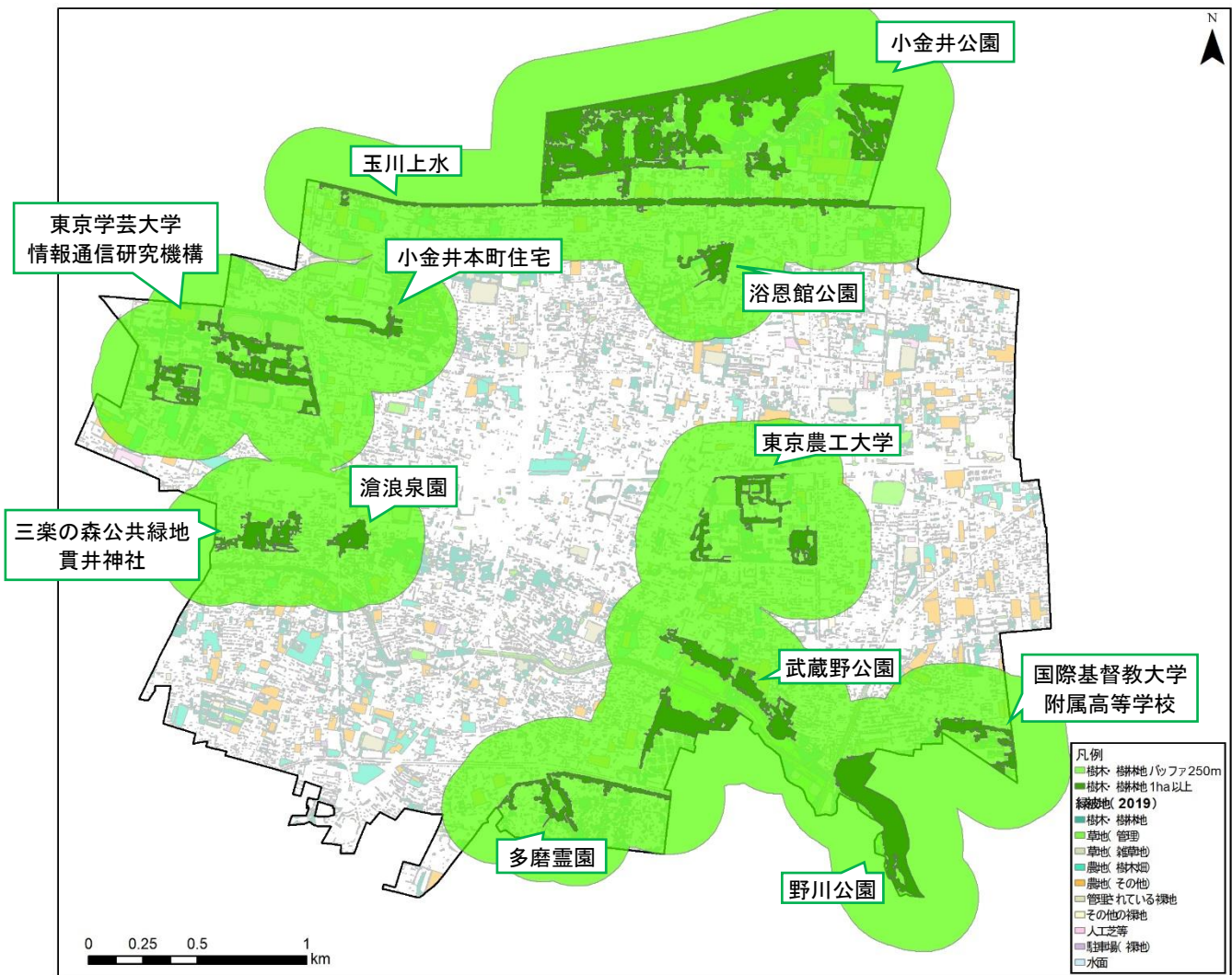


図 ネットワーク図

樹林地の昆虫を捕食し、樹木間を移動するシジュウカラは、1 ha 以上の緑地で1つがいの繁殖が可能である。また、樹林地間の移動距離は250mとされている。(出典：「自然環境復元の技術」1992年杉山恵一、進士五十八編)